日本医学会分科会活動報告

学会名(№. 9) 日本細菌学会

代表者名 理事長 飯田哲也

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

・病原体等安全取扱・管理指針の作成（2008 年に発行して以降、2023 年 9 月に 15 年ぶりに改訂版を発行した）

・細菌学の教育用映像素材集の作成（動画版や顕微鏡写真を収めた静止画像版）

・総会や学会ホームページでのプレスリリースによる学術研究成果の情報発信

・総会での中高生による発表

・次世代の微生物学者育成を目的とした学術集会である細菌学若手コロッセウムの設立および支援

b.当該領域における国際的な役割

・関連分野の研究者との国際的な連携：World Microbe Forum での Symposium の企画および講演（2021 年 6 月）など

・日韓国際微生物学シンポジウムの 2 年毎の開催（交互に、それぞれの国で実施）

・日本ウイルス学会および日本生体防御学会との共同国際学術誌（Microbiology and Immunology 誌）の発行

c.活動からもたらされる社会的な意義

・細菌学およびその関連領域の科学の進歩と市民啓発への貢献

・細菌学およびその関連分野における教育への寄与
：ジュニア賛助会員（細菌学に関心を持つ 18 歳未満）、教育賛助会員（初等中等教育機関教諭等）制度の設置による細菌学への早期からの参加と教育・啓蒙

・新型コロナ感染症対策であるオンライン授業に使用可能な画像映像素材の提供

d.学会運営上留意している点

・細菌学およびその関連分野の研究の発展のため、会員間の連携および学術的交流の推進

・若手理事および女性役員の積極登用

Ⅱ.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい.

・日本ウイルス学会および日本生体防御学会と共同して、国際学術誌（Microbiology and Immunology 誌）を発行している。

・日本微生物学連盟，および日本ウイルス学会・日本生体防御学会・日本感染症学会・日本化学療法学会・日本臨床微生物学会等と共同し、学会シンポジウムを実施している。